私、憧れの自動車整備士になりました!!

interview

自動車を毎日、安全に、そして安心して使うのに欠かせない点検整備。その責任ある役割を担う自動車整備士は、国家試験合格者にのみ与えられる資格。整備ミスをすれば、交通事故の原因になる可能性があり、人命にもつながりかねません。そんな重要な仕事に憧れて自動車整備士になった女性に、志した理由や仕事の楽しさ、やりがいなどを聞きました。

洗車から始めて自動車整備士としての経験を積み、3級整備士資格を取得

自動車整備士になりたいと思ったきっかけは?

父が車を買い替えるときに、一緒に自動車販売店について行って、自動車整備工場を見る機会があったんです。そこで働いていた整備士の人がかっこよくて、憧れるようになったのが最初です。その頃は知識もなくて車のことはほとんどわかっていなかったのですが、自分の車を自分で整備できたらいいなと思って。

お客さまと会話しながらする仕事が楽しい

具体的に職業として意識するようになったのはいつからですか?

高校で卒業後の進路を考えるときです。1つ上の先輩が自動車整備の学校に行ったと聞いて、そっちへ進むことも考えたのですが、結局そのときは4年制大学への進学を選びました。しかし、大学に入ってから、どうしても自動車整備士になる夢が捨てきれず、1年生の途中で退学。最初は自動車整備の専門学校に入り直すことも考えましたが、大学に行かせてもらったのに、また学校へ入りたいとは言えませんでした…(笑)。

働きながら資格が取れる道を探して、自動車整備の実務経験が積めるこの会社に入社することができました。最初は洗車担当として業務に従事し、資格がなくてもできる範囲の仕事で自動車整備の経験を積んで、2年前に3級整備士の資格を取りました。

実際に整備士の仕事に就いて、「よかった」と思うのはどんなときですか?

今では、お客さまのお車の点検の仕事を任せていただけるようになりました。まず、お客さまに「点検させていただきます」と挨拶し、車をお預かりして点検作業を行い、終われば作業の説明をしてお返しするまでが、私の仕事です。終わった後「ありがとう」とお礼を言っていただいたときは、整備士になってよかったと思いますね。当店ではいろんなメンテナンスの商品も販売しているのですが、添加剤などをお客さまにおすすめして「入れてよかったよ」と言ってくださったときなども、すごくうれしいです。

整備士はお客さまと直接関わることのない仕事だと思っていたのですが、そんなことはまったくなくて、点検後の説明だったり、商品のおすすめだったり、ときには「ここはこうなっていますからこうします」と、お客さまと会話しながら作業を進めることもあります。私は人と話すのが好きなので、そういった仕事ができるのはとても楽しいです。

女性の整備士として、男性との違いを感じることはありますか?

最初は、お客さまから女性の整備士は敬遠されるかと思っていたのですが、そんな心配はまったくいりませんでした。逆に「珍しいね」「カッコいいね」と言ってくださることが多いです。とくに女性のお客さまには、より親近感を持っていただけるように思います。こちらもそういう点は意識して、例えばエンジンの添加剤だったら「洗濯機や食洗機でも、水だけでは汚れが落ちませんよね」というふうに、主婦が普段使っているものに例えて、女性にわかりやすいように説明することを心がけています。世間話をして会話を盛り上げたり、小さいお子さまがご一緒でしたら子供の話題をさせていただいたりします。男性のお客さまに対しても、女性の整備士のほうが物腰が柔らかく感じていただけるんじゃないかと思いますね。

〈取材協力〉大阪ダイハツ箕面店

志と夢があれば、好きな仕事への道は開ける

整備士として大切にしていることは何ですか?

きちんとした点検整備はもちろんのこと、お客さまの車をきれいにしてお返しすることです。点検の際には必ず洗車をすることになっているのですが、私自身、最初に洗車から始めたこともあって、外も中もきれいにしてお返しすることが基本だと思っています。

これからの目標を教えてください。

上司にすごく優秀な方が多いので、まずはそういう方々のレベルに近づけるように努力していきたいです。整備のスキルを上げることはもちろんですが、接客もできて、商品の販売もできて、何でもできるオールマイティな整備士になりたいですね。

最後に、今後、整備士を目指す女性たちにメッセージを。

私自身がそうだったように、自動車整備士になりたいという志があれば道は開けます。少々のハードルがあっても諦めないで、夢を持って頑張ってください。